

令和7年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	62.5	62.0	61.7	61.0	49.0
	(1.03)	(0.97)	(1.01)	(1.13)	(0.89)
R7正答率の全国比		(1.00)		(1.05)	(0.86)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・6年生の全国調査では全国平均正答率に比べて国語科は－5、算数科は＋3、理科は－8ポイントであった。国語科では、目的や意図に応じて材料を集めたり関連付けたりし、それらを伝え合う学習や与えられた資料を正確に読み取り要旨を捉えることに、また理科では、実験の結果を予想し、その理由を考えるということにそれぞれ課題が見られた。
- ・意識調査では、「授業以外で1日当たりどれくらい勉強をするか」という設問に対して、半数が1時間以下と答えており、宿題をこなすだけに留まっているようである。一方「授業で学んだことを次の学習や実生活に生かしているか」という設問に対しては、およそ9割の児童が「生かしてる」と答えている。また「自分には良いところがある」と答えた児童は全国平均及び県平均を上回っており、「先生はあなたのことを褒めてくれる」と答えた児童は10割で、『自己肯定感』は高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・毎週金曜日の朝に設定している「若木っ子タイム」では、各学年の学力の実態や進捗状況に応じて、基礎基本の定着に係る内容や応用発展的な内容等の問題に取り組ませる。
- ・現在、児童はタブレット等のICT機器の使った学習と（特に理科において）実際にノートに仮説や分かったことを書く学習に取り組んでいるが、今後もデジタル学習とアナログ学習の併用を継続していく。
- ・校内研究でも、1人1台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業実践に取り組んでおり、今後も実践研究を重ねていく。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎月「生活リズムチェック週間」を設定し、家庭との連携を図りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図っていく。また、児童の実態に合わせた家庭学習の課題の提示や内容の工夫を図り、ICT機器の活用を含めた家庭学習の充実に努めていきたい。